

令和元年度 次世代人材育成・少子高齢化対策特別委員会 県外視察の概要

1 参加委員

須見 一仁（委員長）、井下 泰憲（副委員長）、岡田 理絵、原 徹臣、
岩丸 正史、黒崎 章、古川 広志、浪越 憲一、扶川 敦

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
8月27日(火)	NPO法人さくらスポーツクラブ (大阪府高槻市)
8月28日(水)	子育てウェルカムステーション (大阪府高石市)
	神戸市役所 (兵庫県神戸市)

3 調査目的及び視察概要

(1) NPO法人さくらスポーツクラブ

(調査目的)

NPO法人さくらスポーツクラブは平成14年7月に設立された総合型地域スポーツクラブである。

市立寿栄小学校に隣接するクラブハウスを活動拠点として、スポーツに関心の少ない子供でも興味を持てるきっかけづくりやスポーツを継続させる仕組みづくりに取り組んでおり、子供から大人まで様々な年代の方がスポーツを通じて交流できる場となっている。

また、クラブ、学校、地域の連携に重点を置き、夏休み期間中には、地域の自治会等が参加協力し、学童保育の対象外となる高学年の児童を対象に、サマースクールを実施するなど、地域の様々な組織や学校をつなぐ役割を果たしており、地域活動の中心的な存在となっている。

そこで、総合型地域スポーツクラブと地域の連携による次世代人材育成の取組について次の調査を行った。

- ①総合型地域スポーツクラブの取組について
- ②施設見学

(視察概要)

総合型地域スポーツクラブと地域の連携による次世代人材育成の取組について説明を受けた後、施設の見学を行った。



(2) 子育てウェルカムステーション ハグッドたかいし

(調査目的)

大阪府高石市は人口約5万8,000人の都市であり、大阪のベッドタウンとして、「子育てするなら、高石市」をキャッチフレーズに、様々な施策を展開している。待機児童もなく子供をすぐに預けられる環境整備や病児保育サービスには訪問型と施設型を設けるなど、充実した子育て支援施策を実施している。

また、高石駅前の文化施設「アプラたかいし」内に、高石市と株式会社ボーネルンドの官民協働による子育て支援施設「HUGOOD TAKAISHI（ハグッドたかいし）」を設置し、駅前という誰もが訪れやすいロケーションでの親子の居場所づくりを進め、子育てに優しい街づくりを進めている。

そこで、高石市における子育て支援にかかる官民協働プロジェクト等の取組について次の調査を行った。

- ①「子育てするなら、高石市」の取組について
- ②官民協働による子育て支援施設の設置について
- ③施設見学

(視察概要)

高石市における子育て支援にかかる官民協働プロジェクト等の取組について説明を受けた後、施設の見学を行った。



(3) 神戸市役所

(調査目的)

神戸市では、平成31年1月から全国初の認知症「神戸モデル」として、事故救済と認知症の診断助成を組み合わせた制度を創設している。

本制度は、高齢者が自己負担ゼロで認知症診断を受けることができ、認知症と診断されれば、火災や人・物を傷つけるなどの事故で賠償を求められた際に、市が賠償金を支給するものである。認知症の高齢者や家族、事故の被害者などを救済するとともに、認知症の早期発見を推進し、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指している。

また、市民が気軽に認知症について相談できるよう、認知症に関する総合電話相談窓口「こうべオレンジダイヤル」を開設し、相談内容に応じて認知症初期集中支援チーム等と連携し対応している。

そこで、神戸モデルによる高齢者が安心して暮らせるまちづくりの取組について調査を行った。

(視察概要)

認知症「神戸モデル」について説明を受けた。

